

大分県長期漁海況予報

〔平成 28(2016)年 8 月～12 月までの海水温・漁模様の見通し〕



大分県農林水産研究指導センター水産研究部

879-2602 大分県佐伯市上浦大字津井浦 194-6

Phone0972-32-2155 Fax.0972-32-2156 <http://www.pref.oita.jp/soshiki/15090/>

海況経過<平成 28 年 4～7 月>

■黒潮

2 月下旬以降、都井岬～潮岬沖の黒潮は小規模な擾乱の通過はあったものの接岸傾向で推移しました。

■水温

豊後水道の水温(0～75m層)は、4月は「やや高め」、5月は「平年並み」、6月は「やや高め」、7月は「平年並み」で推移しました(図1)。

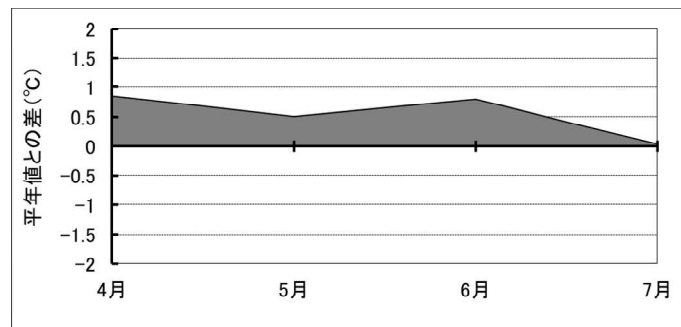


図1 豊後水道における水温の平年値との差(0～75m層の平均値)

■塩分

豊後水道の塩分(0～75m層)は、4～6月は「平年並み」、7月は「やや低め」で推移しました(図2)。

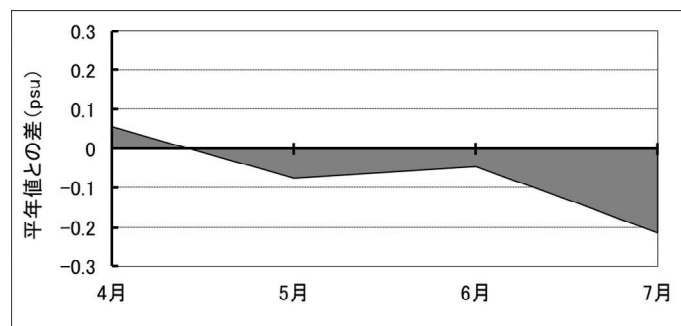


図2 豊後水道における塩分の平年値との差(0～75m層の平均値)

今後の海況の見通し＜平成 28 年 8～12 月＞

■黒潮

都井岬～潮岬沖では、接岸傾向で推移するでしょう。

■沿岸水温

「高め」で推移するでしょう。

■予測の説明と根拠

・黒潮流路予測は平成 28 年度第 1 回太平洋いわし類・マアジ・さば類等長期漁海況予報(中央水産研究所及び関係都道府県:2016)を参考にしました。

・沿岸水温は気温の影響を強く受けると考えられます。福岡管区气象台の「九州北部地方3ヶ月予報」では「低め10%、平年並み30%、高め60%」と予測していることから沿岸水温は高めで推移すると思われます。

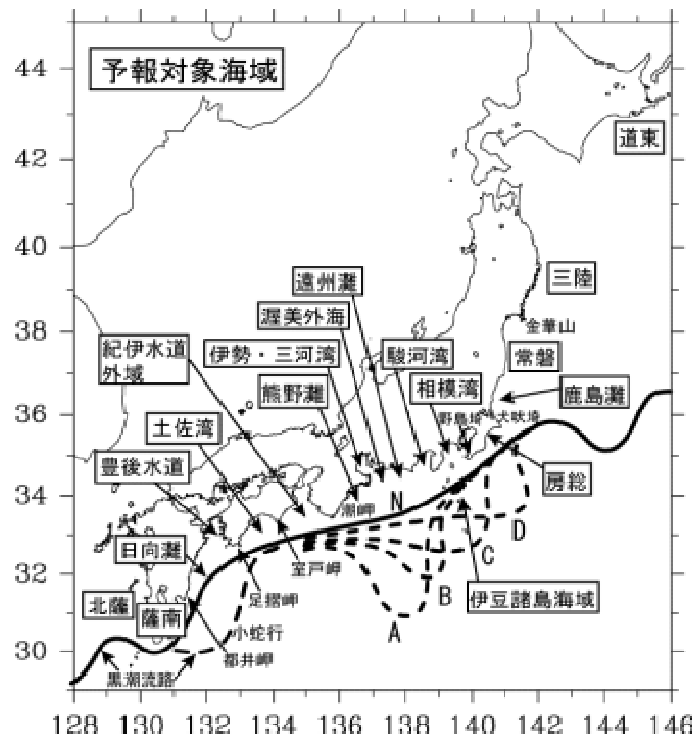


図3 黒潮流型の分類

※上図は太平洋いわし類・マアジ・さば類等長期漁海況予報(水産庁プレスリリース資料)より引用

■マイワシ

□2016年4～6月の漁況経過

2016年4～6月における豊後水道南部主要3港(鶴見、米水津、蒲江)のまき網によるマイワシの漁獲量は4月に0トン、5月に9トン、6月に798トンの計807トンでした。前年比33%、1986～2015年の平均値(以下「平年」)の比21%と、前年・平年を下回る漁獲量となりました。漁獲の主体は被鱗体長^(用語解説②)10～12cm前後(いずれも0歳魚:2016年生まれ)でした。

なお、近隣海域^(用語解説③)では宮崎県は前年の44%、愛媛県は前年の19%、高知県では前年の約50%の漁獲量となっています(宮崎県のみ2016年1～6月、その他は2016年4～6月の漁獲量合計値)。

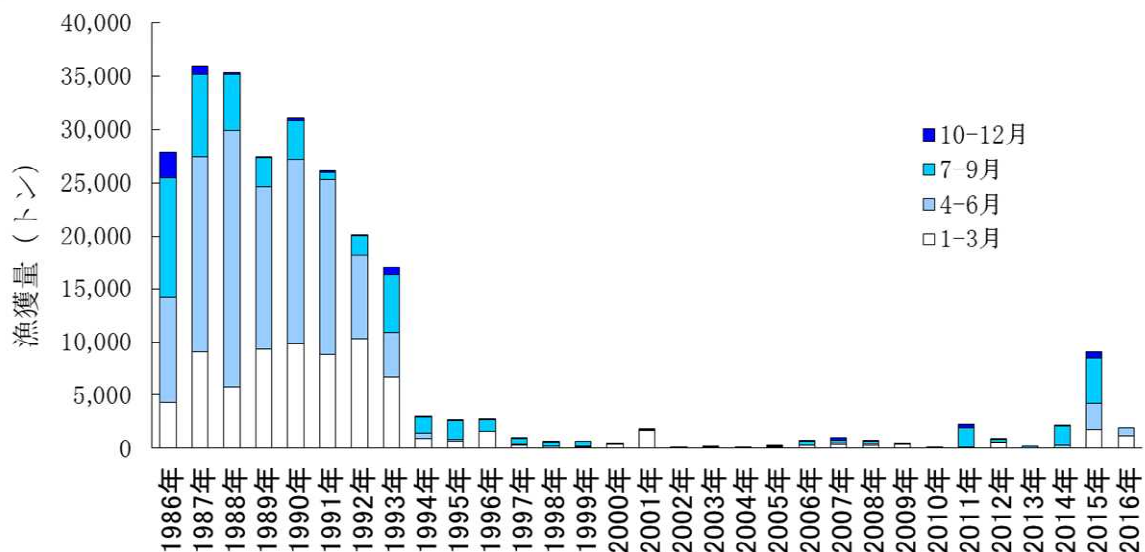


図4 マイワシのまき網における漁獲量(鶴見・米水津・蒲江支店)

今後の見通し<2016年8～12月>



来遊水準:

豊後水道への来遊量は、前年を下回るでしょう。(2015年8-12月:3,495トン)

漁獲対象年級群及び体長:

8～10月は被鱗体長12～18cmの0歳魚(2016年生まれ)が主体となるでしょう。

【説明】

0歳魚(2016年生まれ)が漁獲の主体となった5～6月の漁獲量が807トンで前年を下回ったため(前年比33%)、今後の0歳魚(2016年生まれ)の来遊に期待が見込めないことから来遊水準は前年を下回ると予測しました。ただし、マイワシ資源は太平洋沿岸各県で回復傾向が見られていることから、1994年以降に20年ほど続いたマイワシ資源低迷期と比較すると大きく上回る漁獲水準になると予想されます。

■カタクチイワシ(成魚)

□2016年4～6月の漁況経過

2016年4～6月における豊後水道南部主要3港(鶴見、米水津、蒲江)のまき網によるカタクチイワシの漁獲量は4月に93トン、5月に230トン、6月に638トンの計961トンでした。前年比356%、平年比153%と、前年・平年ともに上回る漁獲量となりました。漁獲の主体は、被鱗体長9～10cm前後の1歳魚(2015年生まれ)でした。なお、宮崎県では前年の859%、愛媛県では前年の1,367%、高知県では前年の1,228%の漁獲量となっています。

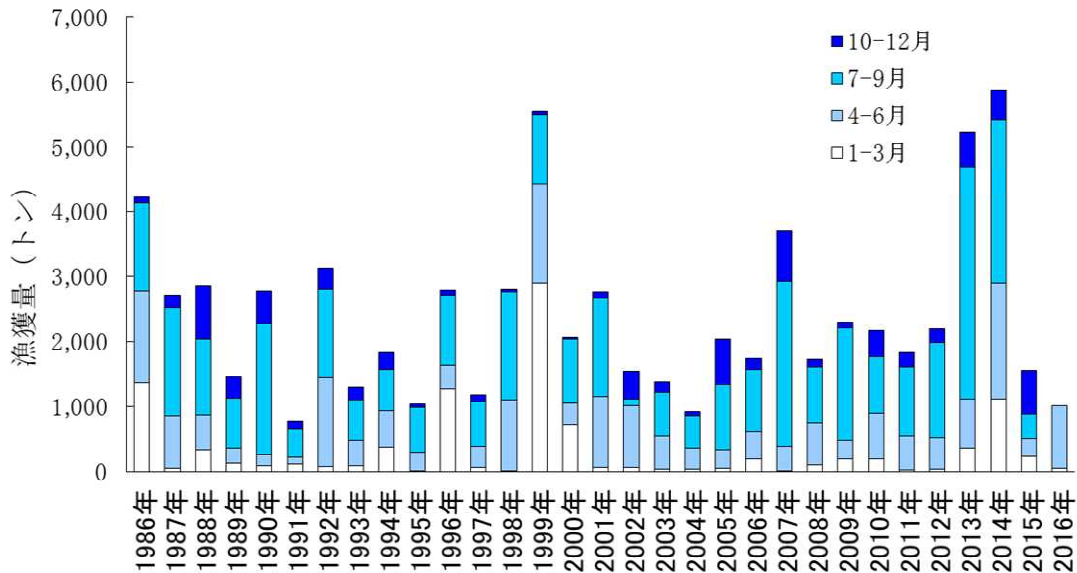


図5 カタクチイワシのまき網における漁獲量(鶴見・米水津・蒲江支店)

今後の見通し<2016年8～12月>

来遊水準:

豊後水道への来遊量は、前年並みでしょう。(2015年8-12月:950トン)



漁獲対象年級群及び体長:

被鱗体長8cm前後の0歳魚(2016年生まれ)主体に1歳魚(2015年生まれ)が混じるでしょう。

【説明】

1～6月の漁獲量(1歳魚主体)が前年を上回っていることから(前年比208%)、1歳魚(2015年生まれ)が漁獲の主体となる8月は前年を上回ると予想されます。一方で、8～10月の3ヶ月間における漁獲量は4～6月の宮崎県シラス漁獲量と関係があり、その関係から推測すると前年を下回る結果となったことから、総合的に判断して来遊水準は前年並みと予測しました。

■ウルメイワシ

□2016年4～6月の漁況経過

2016年4～6月における豊後水道南部主要3港(鶴見、米水津、蒲江)のまき網によるウルメイワシの漁獲量は4月に0トン、5月に0トン、6月に76トンの計76トンでした。前年比130%、平年比40%と、前年を上回り平年を下回る漁獲量となりました。漁獲の主体は、被鱗体長10cm前後の0歳魚(2016年生まれ)および19cm前後の1歳魚(2015年生まれ)でした。

なお、宮崎県では前年の123%、愛媛県では前年の59%、高知県では前年の106%の漁獲量となっています。

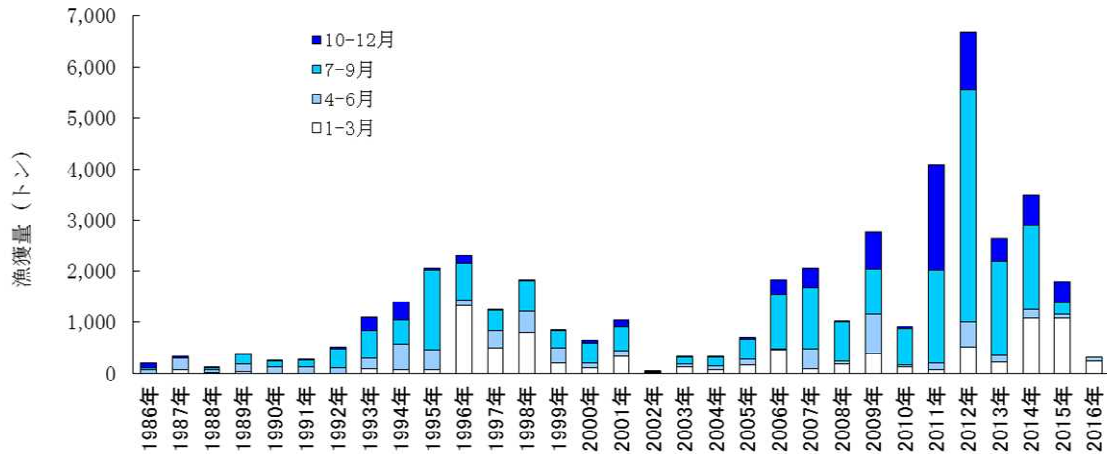


図6 ウルメイワシのまき網における漁獲量(鶴見・米水津・蒲江支店)

今後の見通し<2016年8～12月>



来遊水準:

豊後水道への来遊量は前年を上回るでしょう。(2015年8-12月:575トン)

漁獲対象年級群及び体長:

8～10月は被鱗体長10～15cm前後の0歳魚(2016年生まれ)が主体となり、11～12月は15～20cm前後に漁獲の主体が推移するでしょう。

【説明】

近年の傾向から7～10月に大幅に漁獲が増えると考えられますが、0歳魚(2016年生まれ)が漁獲の主体となる4～6月のまき網漁獲量(0歳魚主体)が前年を僅かに上回ったため(前年比130%)、0歳魚(2016年生まれ)の来遊にやや期待が持てます。また、前年8～12月の漁獲量はここ近年では低水準であり、これを下回るとも考えにくいいため、来遊水準は前年を上回ると予測しました。

■ マアジ

□ 2016年4～6月の漁況経過

2016年4～6月における豊後水道南部主要3港(鶴見、米水津、蒲江)のまき網によるマアジの漁獲量は4月に49トン、5月に32トン、6月に55トンの計136トンでした。前年比93%、平年比25%と前年並みで平年を下回る漁となりました。期間中の漁獲の主体は尾叉長^(用語解説④)18cm前後の1歳魚(2015年生まれ)でした。

なお、宮崎県では前年の321%、愛媛県では前年の57%、高知県では銘柄「アジ」が前年の131%で銘柄「ゼンゴ」が前年の13%の漁獲量となっています。

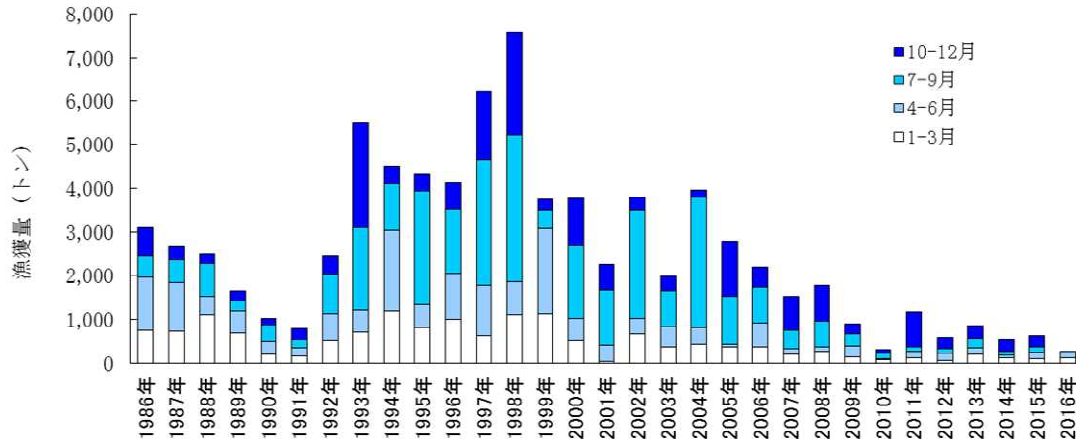


図8 マアジのまき網における漁獲量(鶴見・米水津・蒲江支店)

今後の見通し<2016年8～12月>



来遊水準:

豊後水道への来遊量は低水準であった前年並みでしょう。(2015年8-12月:353トン)

漁獲対象年級群及び体長:

尾叉長15cm前後の0歳魚(2016年生まれ)が漁獲の主体となるでしょう。

【説明】

予測期間中の漁獲の主体になるのは0歳魚(2016年生まれ)と推定されます。新規加入個体が見られる1～6月における県南定置網(蒲江)漁獲量と予測期間中の県南まき網漁獲量には関係が認められ、また県南定置網(下入津)の1～6月のゼンゴ漁獲量にも同様の関係が認められます。両者の指標から来遊水準は、比較的低水準であった前年並みと予測しました。

■さば類

□2016年4～6月の漁況経過

2016年4～6月における豊後水道南部主要3港(鶴見、米水津、蒲江)のまき網によるサバ類の漁獲量は4月に118トン、5月に130トン、6月に29トンの計277トンでした。前年比179%、平年比24%と前年を上回り平年を下回る漁となりました。期間中の漁獲の主体はゴマサバで、尾叉長24cm前後の0歳魚(2016年生まれ)でした。

なお、宮崎県では前年の40%、愛媛県では前年の286%、高知県では前年の25%の漁獲量となっています。

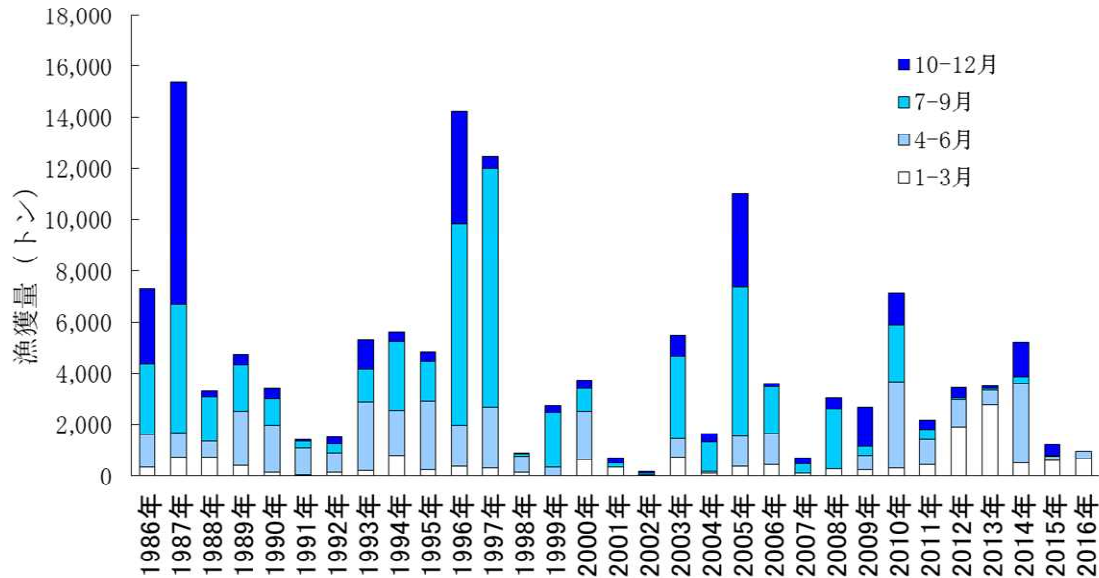


図9 さば類 (マサバ・ゴマサバ) のまき網における漁獲量 (鶴見・米水津・蒲江支店)

今後の見通し<2016年8～12月>



来遊水準:

豊後水道への来遊量は、前年を上回るでしょう。(2015年8-12月:429トン)

漁獲対象年級群及び体長:

近年の調査結果によれば、期間中は尾叉長20～30cm前後のゴマサバ0～1歳魚(2015～2016年生まれ)が主体となるでしょう。

【説明】

予測期間中は0～1歳魚が漁獲の主体になりますが、0歳魚(2016年生まれ)が漁獲の主体であった5～6月の漁獲量が前年を上回ったため(前年比2,204%)、来遊水準は前年を上回ると予測しました。

その他

■予測の根拠および参考資料

・平成28年度第1回太平洋いわし類・マアジ・さば類等長期漁海況予報(中央水産研究所及び関係都道府県:2016)

URL: <http://www.fra.affrc.go.jp/pressrelease/pr2016/20160801/20160801press.pdf>

■用語解説

- ①被鱗体長 :体の前端から、尾柄の鱗で覆われている部分の後端までの直線距離。
- ②近隣海域 :ここでは、3県(宮崎県・愛媛県・高知県)の海域とし、高知県の漁獲量の前年比は宿毛湾における中型まき網によるものとししました。
- ③尾叉長 : 体の前端から、尾びれの湾入部内縁中央(くびれている部分)までの直線距離。

■問い合わせ先

この予報に関する問い合わせ先は、大分県農林水産研究指導センター水産研究部 栽培資源チームまで。

〒879-2602 大分県佐伯市上浦大字津井浦194-6
電話:0972-32-2155
FAX:0972-32-2156